

令和6年4月15日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立勝川小学校  
校長 村上 洋

事業テーマ	学んだ知識・技能（学習）をはたらかせて、すすんで思考・判断・表現（活用）しようとする勝川っ子の育成	
取組の目的	知識・技能の習得をするためのより良い方法、知識・技能を働かせて活用するより良い方法を、「授業づくり」・「ICT活用」の観点で検証し、改善しながら取り組んでいく。また、研究を通して、育てたい子どもたちの資質・能力の育成につなげていきたい。	
区分 (○印を付ける)	新規事業・ <del>継続事業</del> (総事業年数4年間、4年目)	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	深い学びを実現するために、『課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現』を意識した授業過程を計画し、児童が主体的な態度で取り組めるような手立てを検討・実践していく。また、他校の取り組みを積極的に情報収集し、取り入れながら進めていく。事業テーマに則して、本校の特色ある取り組みであるEGT（イングリッシュ・ゲスト・ティーチャー）を活用した、低学年からの英語指導の授業の充実を図りたい。	
事業名	事業内容	実施時期
現職教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開校内授業研究会（外部講師招聘）</li> <li>現職教育</li> <li>先進校研修視察</li> </ul>	年間3回 (各学期1回) 通年  1・2学期
英語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>EGTとの英語活動</li> <li>ALTによる、現職教育</li> </ul>	通年 8月
取組の成果 <b>【現職教育の推進】</b> これまで取り組んできた【探究のサイクル】を意識した授業過程や、身に付けさせたい情報活用能力の明確化に加え、児童の主体的な活動に着目して取組を進めた。日常的に学年間や学年を越えての情報共有をしながら進め、3回の校内研では様々な視点から授業を検証することができた。特に、外部講師の講話において、成果・課題となる部分の理解が深まり、教職員の授業実践の変化につながった。児童が見通しをもって学習するための提示方法の工夫、学習の目的や目標の理解を深めるためのパフォ		

パフォーマンス課題・ルーブリックの設定、粘り強く・自己調整しながら取り組むための自由進度学習の実施など、試行錯誤しながらも児童の「主体性」を育むことを目指した多くの実践が生まれた。年度末の職員の反省では、職員自身が学びの手応えを大きく感じている様子が分かり、年間を通して職員自身の意欲の向上・主体的な取組につながった。

**【英語教育の推進】**

継続的に低学年から英語に親しむ場を設定することで、3年生の外国語活動にスムーズに接続できた。

**課題**

**【現職教育の推進】**

学習端末の活用が進み、さまざまな学び方ができるようになっているが、何を学ばせるのかといった、「学ぶ内容」についての議論がさらに必要である。今後は、これまでの取組を継続しつつ、児童がより「見方・考え方」を働かせながら主体的に活動できる手立てを検証していきたい。パフォーマンス課題やルーブリックを活用して、教師自身はその学びの見方・考え方を明確にするとともに、それを児童と共有し、見方・考え方を働かせて主体的に学習に取り組めるような児童の育成を目指していく。

**【英語教育の推進】**

ALT や外国語の教科指導の配置が充実してきたため、EGT としての必要性は低くなってきている。今後事業の精選が必要である。